

## 2015-2016 年度 RID2660 補助金管理セミナー ロータリー財団概説

2016 年 2 月 20 日 福家 宏

皆様こんにちは。折角の週末にも関わらず、多数のご出席を頂きまして、誠に有難うございます。

今日はロータリー財団の補助金に関して、地区とクラブの間の重要な覚書を作成提出するための大切なセミナーでございます。どうしてこんなちょっと面倒くさいようなことをしなければならないのか、皆様はこの後のロータリー財団委員会からのご説明をよくお聞き頂いて、そこのところをご理解頂きたいと私は願っております。そしてすべてのクラブからご署名を頂いた「覚書 MOU」をご提出頂きますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ロータリー財団について考える前に、ロータリーの「奉仕」とは何だろうということを考えてみたいと思います。これは短時間で語りつくせるものではありませんので、私は部分的な話をさせていただきます。

ロータリーの 5 大奉仕のなかで、明確に対外的な奉仕といえ、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕ということになります。その対外的奉仕を行っていくうえでどうしても必要なのはお金です。ロータリアン自らが河川敷の清掃をすると言った尊い奉仕活動もありますが、他の多くの奉仕活動にはどうしてもお金が必要です。世界のどこかの貧しい人々のために毎日神様にお祈りをしても、これは奉仕活動とは言えません。やはり奉仕活動にはお金が欠かせないものがあります。ロータリー財団は皆様の浄財を的確に効果的に活用することが出来るように、何通りかの方法で皆様の活動を支援して来ました。例えば地区補助金やマッチング・グラントです。2013 年 7 月から、もうマッチング・グラントは存在しませんが、私の属するクラブも何度かマッチング・グラントの恩恵を受けて来ました。タイの貧しい地域の多くの学校に浄水器を設置するプロジェクトでしたが、小規模な私たちのクラブが用意出来た資金は 5000 ドルに過ぎませんでした。その 5000 ドルにはロータリー財団から 2500 ドルを授与されます。地区に申請すると 5000 ドルの DDF の使用が認められました。この DDF にはロータリー財団から同額の 5000 ドルが授与されました。もうこの時点で、活動資金は 17500 ドルにまで膨れ上がりました。そこに他地区の DDF 他クラブの寄付金、支援実施国の RC からの寄付金も加わって、私たちのクラブの 5000 ドルは総額がなんと 61500 ドルに達したわけであり、財団マジックであります。このマジックのような補助金システムは 1 クラブの負担額が小さくても、

大きな金額となって、大きな成果を生み出します。このことをどうぞ念頭に置いて頂きたいと思います。

ロータリー財団は私たちの寄付金によって成り立っています。寄付金は年次基金寄付、恒久基金寄付、使途指定寄付などですが。そのうちの年次基金は全て奉仕活動に使われております。今お話ししたマッチング・グラントという補助金も私たちが寄付した年次基金から私たちに支払われるのです。私たちが奉仕活動を実施しようとするとき、ロータリー財団に申請することにより、多額の資金援助を受けることが出来るのです。2013年7月からマッチング・グラントは所謂FVPにより、廃止され今はグローバル補助金という形となっていますが、この補助金も元となっているお金は皆様の寄付であります。

年に1回「ロータリー財団月間」があつて、多くの場合その月にクラブ財団委員長の皆様はクラブのロータリアンに対して「寄付のお願い」されることと思います。「米山月間」と近接していることもあつて「また取られるんか〜」と嘆くロータリアンがおられますが、なんか勘違いをされているのではないかと私は思います。ロータリアンは奉仕の理想を志してバッジを胸に着けているのです。寄付金の要請があつたときには、私たちロータリアンは「奉仕の機会を与えられた」と考えるべきではないでしょうか。たとえプロジェクトを実施することがなくても、寄付をすることで「奉仕活動への参加」をしていることになるわけであります。寄付は施しではありません。尊い奉仕活動であつて、奉仕をさせて頂いているのだと考えて頂きたいものでございます。少し痛みを感じるくらいの寄付こそ値打ちがあるのではないかと思います。

また皆様のクラブが、地区補助金やグローバル補助金を利用したプロジェクトを計画し、申請をして実施されるときに得られる補助金は、多くのロータリアンの浄財そのものであることを忘れてはなりません。だからこそ、獲得した補助金は「このように適切に利用しました」という報告と同時に「きちんとした資金管理や会計報告」が求められるのは当然のことであります。補助金を利用する際にはこの補助金の中にはプロジェクトを実施していないロータリアンの浄財も含まれているんだなということを肝に銘じて、きちんとした資金管理と最終報告書の提出をして頂きたいと思います。

今日ご提出頂くMOUというのは、まさしくこういったことを地区に対して約束をするものだとお考えください。

MOU は FVP 以前にはなかった制度ですが、FVP 実施に当たって地区の裁量が増え、プロジェクトの金額も増えたことから、導入が必要になったものであります。

話の順序が逆かもしれませんが、ここから ロータリー財団の歴史 に触れておきたいと思います。

ロータリー財団の礎を築いたのは、皆さまご存知のアーチ・クランプです。彼は 6 人目の RI 会長で、1917 年に米国ジョージア州アトランタの国際大会の席上、「全世界的規模で、慈善、教育、その他社会奉仕の分野でより良きことをするために基金を作ろう」と呼びかけました。そして基金の設置が行われました。1917 年といえば第一次世界大戦のさなかでありました。

そして来年はそれから丁度 100 年が経過し、次年度の国際大会はアーチ・クランプがその呼びかけを行ったアトランタで開催されます。次年度は各地区でもロータリー財団 100 年を祝って様々なイベントが実施されることと思います。

話を戻します。1928 年に 5000 ドルにまで成長したこの基金は「ロータリー財団」と名付けられて国際ロータリーから独立した別機関となりました。ロータリー財団の正式名称は「**国際ロータリーのロータリー財団**」です。

私はこれからロータリー財団が刻んで来た輝かしい歴史を少しだけとどりたいと思います。これはお手元に資料をお配りしております。

1947 年にポール・ハリスが死去致しましたが、この時 70 か国以上、30 万人以上のロータリアンがロータリーの創始者の死を悼みました。しかし彼の死はロータリー財団の転換点となりました。世界中のロータリアンから国際ロータリーに寄付が寄せられ、財団は**ポール・ハリス記念基金**を設け大きく発展することになります。翌年の 7 月までに 130 万ドル以上の寄付金が集まりました。そして財団は 1947 年に最初の財団プログラムを設置致しました。これは当時、高等研究奨学金と呼ばれましたが、のちに国際親善奨学金へと発展致しました。さらに 1957 年にロータリー財団は、財団の活動に寄付した人々への感謝を示す手段として PHF の認証を開始しました。今や PHF の数は 150 万人以上と推定されます。

そして 1965～66 年度財団は新たに「研究グループ交換(GSE)」「技術研修のための補助金」「財団活動のための補助金」という 3 つのプログラムを開始。

1978 年には 3H プログラムつまり「保健、飢餓追放、人間性尊重補助金」を開始しており、この第一号がフィリピンでの 600 万人の子供たちへのポリオ生ワクチン接種活動でした。

1985 年ロータリーは 100 年後の 1995 年までに全世界でポリオの撲滅を目指す「ポリオ・プラス・プログラム」を設置しました。この 1985 年当時のポリオ蔓延状況ですが、125 か国で蔓延しており、35 万人の新規発症がありました。それが 2009 年の蔓延国は、インド、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの 4 か国にまで減少して、2012 年にはインドが消え、2015 年にはナイジェリアが WHO の蔓延国リストから除外されました。今やパキスタンとアフガニスタンの国境一帯を残すのみとなっています。このことはロータリー財団の最も価値ある歴史ではないかと思えます。そしてロータリアンはこのことを誇りに思えばいいと思えます。

2018 年中に世界中のポリオがもしも根絶できれば、ロータリアンは凱歌を上げなければならないと思っております。

ポリオ撲滅活動はロータリーが牽引してきましたが、資金的にはロータリアンの寄付のほかにビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団の強力なサポートと、各国政府の支援金も加わっていることを付け加えておきたいと思えます。

1987～88 年には初めて「平和フォーラム」が開催され、これが「ロータリー平和フェローシップ」創設のきっかけとなりました。平和フェローシップというのは平和フェローに授与される奨学金を指しております。ロータリー財団は 2002 年に世界 7 カ所 8 大学をパートナー大学に指定し、ロータリー平和フェローシップを発足させました。

2004-2005 年財団管理委員長のカルロ・ラピッツァさんは、ロータリーの衰退を警告されていましたが、その時にマッチング・グラントの存続についても問題を指摘しておられました。マッチング・グラント・プロジェクトは件数は多いが規模が小さく、経費が大きすぎる。1 件の処理に 1700 ドルもかかってしまうなどの具体的指摘もなさいました。

その後ロータリー財団は 2008 年 9 月のリーマンショックなどの影響もあって財政が逼迫した時期がありました。WF が枯渇したこともありました。そのような

経過ののちに 2008 年 6 月、RI 理事会はロータリー財団制度の見直しを承認しました。引き続き 2009 年 RI 理事会は戦略計画の大幅な見直しを行ったわけです。この流れの延長線上に未来の夢計画 FVP が登場してくることになります。世界のニーズに対応するために、ロータリー財団の奉仕活動が大幅に増え続けている中、手続きの簡素化と同時に奉仕の大いなる成果が望まれるようになりました。新しい補助金制度は時間をかけて綿密な準備がされて、3 年間の試験的期間も設けて検討が重ねられたうえで、2013 年 7 月、ついに補助金制度が大きく変革しました。つまり現在の補助金制度がスタートを切ったわけであります。

⇒FVP の試験期間中でしたが、2011 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生して未曾有の大被害を惹き起こしました。この地震は日本観測史上最大のもので、18000 人以上の人々の命が失われ、2600 人近くの人々の行方が不明であり、福島第一原子力発電所原子炉のメルトダウンが発生するなど復旧・復興には難題が山積しています。この大震災発生に際して、ロータリー財団はいち早く手を差し伸べてくれました。私たちは補助金を利用して世界の貧しい地域への支援活動を活発に行ってきましたが、このときは支援を受ける側となりました。そしてロータリー財団は被災地支援のためのマッチング・グラント・プロジェクトの申請書はロータリー財団本部が審査しなくても、日本の特別委員会に審査をゆだね、迅速にプロジェクトが実施出来るような、特別な配慮をしてくれました。この特別なシステムは 2013 年 6 月までに廃止されましたが、あの時の感動を私は忘れることが出来ません。

さて 2013 年 7 月から FVP Future Vision Plan と称する新しい補助金モデルが開始されました。マッチング・グラントが廃止されてグローバル補助金が誕生しました。地区補助金も名称は同じですが、DDF 利用率が高くなっています。

1917 年に 26 ドル 50 セントの寄付から始まったロータリー財団は、今や 30 億ドル以上の寄付を受けるほどの大きな財団に成長しました。財団はこうして多くの方々に支えられ、人道的分野や教育面での支援活動を続けております。ロータリー財団は私たちロータリアンによって支えられ、私たちはロータリー財団のプログラムによって奉仕活動の支援を受けているのだということをご理解頂きたいと思えます。

以上ロータリー財団について、おおざっぱなご紹介をさせていただきました。ご清聴有難うございました。